市指定有形文化財に新たな３点！

平成20年11月25日に、飯山市文化財保護審議会の答申を受け、「大倉崎神社の木造狛犬」、「恵端蔵書『夾山鈔』」、「大輪院の木造天部立像」の３点が、新たに飯山市指定有形文化財に指定されました。

これにより飯山市内の文化財は、国指定５件、県指定13件、市指定79件、市選択４件となりました。新たに指定された文化財を紹介します。

■大倉崎神社の木造狛犬■

この狛犬は、前肢を踏ん張り、閉口して顔を上げています。尾の部分は別材で作られ、臀部先に差し込んであり、頭部は巻髪を刻んでありますが、全体が素朴な彫りであるため、専門の彫刻師でなく、この地域の信奉者が刻み、奉納したものでしょう。

阿形・吽形ともに歯列に胡粉彩、体部には胡粉下地に黒漆が施してあります。「文明九年酉年」（1477）と刻まれているのは、造立年を示していると考えられますが、狛犬についての記録が無く、由来については不明です。室町時代中期の狛犬が現存していることは、飯山市の中世の歴史を知るうえで貴重な文化財です。

㊤大倉崎神社の木造狛犬

■恵端蔵書『夾山鈔（きょうざんしょう）』■

正受恵端は、寛永十九年（1642）に飯山城中で生まれました。19歳で江戸に出て、延宝四年（1676）に帰飯してからは享保六年（1721）80歳で入寂するまで45年間飯山の地を出ることなく生涯を過ごしました。その間、臨済宗中興の祖である白隠を厳しく指導するなど、禅宗で高い評価を得ています。

本書のなかには、欄外に恵端禅師が書き込んだ注解が多数あり、厳しい修行の間に何度も読み込まれていたことがわかることから、恵端禅師の具体的な修行の一端がわかるとともに、臨済宗の傑僧である恵端禅師が飯山で修行していたという証でもあり、貴重な文化財であるといえます。

㊤恵端蔵書「夾山鈔」
㊦本書中の恵端直筆の注解

■大輪院の木造天部立像（てんぶりゅうぞう）■

大輪院は慶長六年（1601）、飯山藩主関長門守一政が愛宕山大権現の別当寺として創建し、飯山城歴代藩主の祈願所でした。江戸時代の飯山城絵図には太子堂・地蔵堂・稲荷社・天神社などが描かれ、大きな寺院であったことがうかがえます。

本像は、像容から四天王のうちの増長天（南）と考えられ、甲冑を着けた一面二手の武人像です。左腕を曲げ腰に手をあて、口を開き眼を大きく開けた憤怒の表情をしています。造立年代は室町時代後半と思われ、大輪院の歴史や歴代藩主の祈願所であったことをうかがわせる貴重な作例です。

㊦大輪院の木造天部立像

これからも文化財を大切にしましょう。

飯山市文化財保護審議会委員
任期：H 20 年 10 月～ 22 年9月

役　職	氏　名
会　長	関口　信男
会長職務代理	上原　脩
委　員	長瀬　哲
委　員	白井　春子
委　員	樋口　和雄

（敬称略）

ふるさと館ニュース

飯山市ふるさと館
〒389-2253
飯山市大字飯山 1434-1
電話：0269-67-2030
FAX：0269-67-2030
e-mail:furusato@city.iiyama.nagano.jp

6・9・12・3 月発行

ご　案　内

【開館時間】
9:00 ～ 18:00
※入館は 17:30 まで

【休 館 日】
月曜日、年末年始
※祝日の場合は火曜日

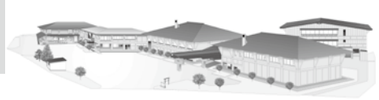
【入 館 料】
大　人 200 円
子ども 100 円
※市内の小中学生は無料

今月の文化財

県史跡　勘介山古墳

勘助山古墳は、飯山地域で初めて発見された前方後方墳です。山頂に立地することや、狭小な前方部であることから前期古墳と考えられています。

発掘調査を行っていませんので内部構造については不明ですが、自然の地形を巧みに利用した古墳時代前期の古墳が飯山市にあることは大変意義があります。



シリーズ 飯山を語る No.11

美しく優しい飯山

相原　麻木

町をはずれると、あの美しい飯山の風景に出会いました。

自然な優しい山・・・緑にうもれる田畑・・・すべておだやかです。心がいつの間にかその風景にかこまれてやすまる思いが致しました。それから車で風景をみていましたら「あっ！」と思わずあの美しい菜の花畑に出会ったのです。

見渡す限り黄色にうまり、生まれて初めての風景・・・それと、「菜の花畑」の歌が頭にうかびました。子どもの頃から親しんだあの歌が、この飯山の美しい風景だったのです。その時の感激は忘れられません。そして、車の中であの歌を口ずさんでしまいました。それからしばらく運転を致しましたら、兎がはねている塀がありました。そうなのです。この兎もあの飯山の歌です。「兎おいしかの山・・・」また思わず歌ってしまいました。

この様におだやかな風景でしたから、あの有名な日本の童謡が生まれたのですね。飯山は本当に自然を美しくささえた市だと思います。

この素晴らしい飯山市の方々に「相原求一朗」の絵画をかざる清らかな美術館をたまわり、心からの感謝・・・いつも飯山を思い出しています。

そして皆様の御やさし、忘れる事ができません。元気で居りました主人も何時も飯山を思い、愛し、皆様方のお話をしており ました。私も飯山をお訪ねするのが楽しみ・・・そして御なつかしい方々とお会いするのが何よりです。

求一朗が逝去して早十年近くになります。主人も何時も飯山の事を話しました。各地旅を致しましたが「北海道」、「長野」は飯山です。皆様の御やさしさ、風景のおだやかな美しさ・・・飯山の事を心から愛しております。

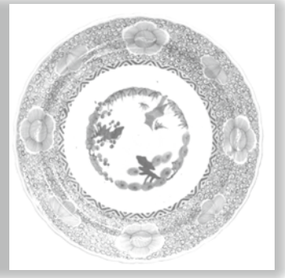
これからも私が主人の思いをこめ、皆様と変わらぬ交友をたまわりたく思います。

感謝をこめて

相原さんは、飯山市美術館で常設展示中の画家故相原求一朗氏の夫人で、毎年何度も大勢で飯山を訪れていただいている、飯山ファンのお一人です。

飯山市ふるさと館　企画展

「奥信濃飯山の瀬戸物・唐津物　第２期」



奥信濃飯山に伝わる、古墳時代から明治期までの焼き物の移り変わりを紹介しています。焼き物からうかがえる当時の人々の暮らしぶりを想像してみましょう。

■期　間　11 月 1 日（土）～ 12 月 28 日（日）
■場　所　飯山市ふるさと館

寄贈資料一覧

9月～11月

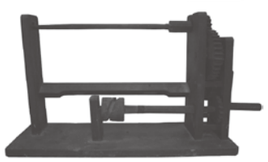
▽宮本　康夫　様
伝飯山城主本多氏使用
炬燵櫓

▽山本　光男　様
拾円兌換券

▽鈴木　久雄　様
綿繰り機、糸巻き機、糸巻き

▽阿部　智子　様
反物、子供用着物、子供用半纏

▽佐々木　芳臣　様
曳きぞり

ふるさと館ニュース９月号の宮本嵩様は宮本崇様の誤りです。訂正させていただきます。

※飯山市ふるさと館では、当館で所蔵していない資料の寄贈を随時受け付けております。寄贈いただいた資料は、大切に保存・活用させていただきます。